

第2回江南市行政事業検討委員会議事録

日 時 平成30年 6月4日 (月) 午後1時30分～午後4時00分

場 所 市役所 3階 第3委員会室

出席者 横山 幸司、武長 脩行、澁谷 威是、水野 裕子、古田 智子、村尾 真理

傍聴者 なし

資 料 次第

資料1	行政事業レビュー対象事業1次選定一覧
資料2	行政事業レビュー 2次選定対象事業一覧
資料3	行政事業レビュー対象事業の3次選定について

議題(1) 行政事業レビュー対象事業の2次選定について

- ・ 資料1及び2に基づき、事務局から説明した。
- ・ 質疑応答は以下のとおり。

【I. 生活環境、産業分野】

副委員長 資源ごみ回収事業実施団体助成金の見直しは、市としては助成金を増額して資源ごみ回収事業実施団体（以下、実施団体とする。）を増やしたいというものだが、実施団体の意向について調査・報告が必要である。
火災情報の伝達方法について、安全性を確保する上で廃止すると困る方がいるが、費用対効果は上がっているのか。
テレドームの着信件数は火災件数により増減するが、着信件数が28年度より29年度は増えているため、存続させた方が良いとの見方もできる。利用者からの意見はあるか。

事務局 実施団体や資源ごみ回収量が減少傾向にあり、今後回収量を増やしていきたいため助成単価を見直し、より有効な助成金にしたい。
テレドーム利用者の意見は、利用者が特定できないことから把握できない。
着信件数は火災件数により増減すると考えられるが、火災件数に関する資料が手元にないので回答できない。

副委員長 テレドームは市民に周知されているのか。

事務局 消防署のホームページに、市内で発生した火災事案の案内としてテレドームの電話番号を掲載している。

委員 資源ごみの回収量は、可燃ゴミの回収量と関係があるか。

- 事務局 可燃ごみの回収量との関係は分からない。
- 委員 子ども会で資源ごみ回収を実施した当時の話だが、助成金によって子ども会の運営費が潤い、子どもたちに活動を通して還元できていた。
実施団体のうち、どのような団体が減少しているのか。その理由はなにか。
もし、子ども会が減っているならば、子どもの数が減っていることから回収できなくなっているのではないか。資源ごみの回収は大変な労力が必要である。
実施団体には資源ごみの売払収入があると資料に記載されているが、資源ごみの相場が低いときは、助成金を受けることで活動が維持できた時期もあった。
- 委員 資源ごみの回収は中学校の授業の一環で行われており、助成金で学校備品を購入できるため、子ども達自身も資源ごみ回収の必要性を理解している。
しかし、回収回数を増やしても回収量が増えないと、収集運搬コストが増すだけだと思う。
子どもたちのリサイクル意識向上のため、回収活動は続けていけると良い。
火災情報の伝達方法について、テレドームの存在を知らない人が多いのではないか。資料では愛知県内からの着信数が減少傾向だと分かるが、江南市内からの着信件数はどれほどか。
- 事務局 テレドームのサービス提供会社からは愛知県内からの着信件数しか提供されず、江南市内からの着信件数は把握できない。
市内の火災情報はメール配信サービス「あんしん安全ねっと」で伝達しているが、そのサービスを使用せずテレドームだけを使用している方がいるため廃止できない状況である。
経費削減のため、同時着信できる回線数を限定した音声案内サービスに切り替えてはどうかなど市民の意見を伺いたい。
- 委員 民間が設置した資源ごみ回収ステーションの増加が回収量の減少につながっていると思われるが、ごみを捨てる場所は捨てる側の選択であるため、仮に助成金を増額しても回収量が増加するとは限らない。
また、実施団体のために資源ごみを保管しておこうという考えは地域の仲の良さなどが関係しており、最近では近隣に誰か住んでいるか分からないという傾向がある中、助成金額を上げるだけで解決できるとは限らない。
火災情報の伝達方法は、電話での案内を完全に止めることはできないため、以前採用していた同時着信できる回線数を絞った方法に変更した方が費用対効果の向上に繋がると思う。
- 委員長 資源ごみについては助成単価を上げることも大切だが、なぜ実施団体が減少しているのか示してほしい。また、実施団体にとって、助成金が必要な財源として有効に使われているかも検証してほしい。
テレドームについては、費用対効果を検討するならば効果額を示してほしい。
委員が客観的に判定できるだけの資料が示されないと議論しにくい。

【Ⅱ. 健康、福祉分野】

- 副委員長 国民健康保険優良家庭表彰（以下、優良家庭表彰とする。）は、医者に行かない方が良いということになり、目的・効果として時代遅れだと感じる。
特に高齢者は、健康維持のため適切な受診が必要である。
幼児2人同乗用自転車（以下、自転車とする。）は、利用者にとって重宝していると思う。平成21年に購入したため老朽化していると思うが、今後も継続して使用できるのか。
- 事務局 自転車は各保育園に1台ずつ、子育て支援センターに2台、合計20台が配備されている。購入を検討している方の試乗用として貸出しており、その役割は果たされた。同一の方の利用頻度が高いことも悩ましいことである。
また、自転車も老朽化してきている。
- 委員 1人の利用者が長期に渡り借用したとしても3年間ほどである。本当に必要な方が利用しているならば良いことではないか。
- 事務局 希望者が2人いる場合は、交互に1か月単位で貸出している。別の保育園の自転車が空いているときは融通して貸出している。
- 委員 優良家庭表彰は、医療機関を受診しなかった本当の理由が判断できず、現在の保健事業にそぐわないと感じる。
自転車の貸出は利用者が固定しているとのことだが、借用期間は長くて2～3年間であるので、ニーズがあるならば貸出を継続したほうが良いと考える。
- 委員 優良家庭表彰について、重症化する前に医療機関で受診した方がよく、単に医療機関で受診しなかったことだけを条件に表彰することに違和感がある。
自転車の貸出について、その自転車はどのような形状をしているのか。
自転車の購入を勧めたり、購入者へ補助をしたりするほうがよいのではないか。急遽自転車が故障した方へ貸出すことにしてもよいが、事故防止のため貸出前には点検が必要である。
- 事務局 自転車の形状は、ハンドル部分が幅広くなっており、幼児が安定して座ることができるようになっている。市としては、自転車の普及促進のために貸出を行っており、自転車を購入せず長期間借用し続ける方は、市と利用者との間で目的が異なっている。
- 委員 子どもが成長すれば使用できなくなり、実質3年間ほどしか使用できない自転車であり、価格も高額なため、購入を勧めるのは負担であると思う。
- 委員 利用者の声はどうか。市と利用者との考え方に相違があれば見直しを考えた方がよい。
レビュー対象事業とする前に、まずは利用者の声を聞く必要がある。

- 委員 優良家庭表彰については、江南市の国民健康保険加入世帯数を示してほしい。愛知県内 54 市町村中 37 市町村が実施していないということが論点ではなく、優良家庭表彰を止めた場合その予算の使途はどうかを示した方がよい。自転車の貸出について修繕費用等は示されているが、今後老朽化に伴う自転車の更新時期や台数、費用などが示されるとより検討しやすくなる。
- 委員長 優良家庭表彰は、本来は健康を維持するための政策だと思われるが、単に止めればよいという方向で検討、議論すべきではない。自転車貸出は、すいとびあ江南など他の施設での利用を考えているとのことだが具体的にどういうことか。
- 事務局 すいとびあ江南には貸出用の自転車が配備されているので、そこで幼児 2 人同乗用自転車も維持管理して活用したいという考えである。
- 委員長 自転車をすいとびあ江南に持っていけばよいという案だけでなく、担当課はもう少し様々な手法を考え、代替案を示してもらいたい。

【Ⅲ. 都市生活基盤分野】

- 委員 公園の利用者状況について聞きたい。噴水とせせらぎ部分はどのようなものか。
- 事務局 実際の利用人数は把握しきれない。テレビのニュース等で、猛暑日に子どもが公園で水遊びしているシーンがあるが、そのようなイメージである。
- 委員 炎天下で子どもが水遊びできるのかどうかは疑問がある。行政事業レビューの対象事業として取り上げるならば、公園の利用状況などが示されないと、水場が必要かどうかの議論もできない。街路樹の維持管理費が負担であれば、造園業者ではなくシルバー人材センターを活用しコストを抑制する考えはないのか。
- 事務局 既に低木の剪定はシルバー人材センターに依頼しており、高木は作業車等が必要なため造園業者に依頼している。街路樹に関する苦情件数が多いが、一度にすべての剪定ができるわけではなく、剪定してもすぐに伸びてしまうなど問題がある。街路樹が交通の安全性を低下させ、鳥害も引き起こしている一方で、緑を大切にしようという考え方もあるため、市としては悩ましい。
- 委員 せせらぎ部分はいつから故障し、稼働していないのか。また、故障していることに対して苦情はあったか。
- 事務局 苦情の有無は把握していないが、改修には多額な費用が必要なため、修繕して活用するかどうか市として思案しているところである。

- 委員 低木の剪定では、シルバー人材センターの作業員が、車道において危険にさらされながら作業している姿を目にすると、そこまでして樹木は必要ないのではないかと思う。
- 委員 小牧市の四季の森や大口町の堀尾跡では、水が滝のように流れていたり、子どもたちが水場で遊べる施設が設置されていたりするので、活用方法のヒントになる。
せせらぎ部分を作った時点で、将来故障することを想定して修繕費を考えなかったのか。また、噴水部分は水深が深い、せせらぎ部分の水深は深くないのか。水難事故が発生しないか気掛かりである。
- 事務局 噴水とせせらぎ部分は独立しており、せせらぎ部分の水深はごく浅く、子どもたちが遊べるくらいである。
- 委員 中央公園では、隣接する江南高校の陸上部員がランニングし、親子が遊具で遊び、お年寄りが散歩するなど、公園としての利用価値は大いにある。
ただ、せせらぎ部分は水が流れていないことが通常となっており、流れていないことに疑問を抱く人はいないように感じる。
街路樹について、信号機や標識の視認性を妨げている箇所の写真があると分かりやすい。街路樹は成長することを考えて植えたのかという根本的な疑問も感じる。剪定が樹木の成長に追いついていないように思われる。
- 委員 せせらぎ部分の修繕について総合的に判断するならば、修繕費と年間維持費、市にとってその公園がどれだけ重要であるか、どのような位置づけなのか、今後どのようにしていきたいのか示してほしい。
街路樹は、撤去に係る追加経費と、間引いたことによる維持費の削減額を詳しく示してほしい。
- 副委員長 せせらぎ部分を修繕してこなかった理由はなにか。せせらぎ部分で水が流れれば、夏場は親子が喜ぶのではないかと思うため、一時的に修繕費がかかっても再開してほしい。
街路樹の維持管理費は、今後も下がることはないと思われる。シルバー人材センターに委託すればよいとの意見もあったが、今は 70 歳でも働いている方が多く、賃金も安価なため、シルバー人材センターの人材が不足傾向にある。
維持管理に毎年多額のコストをかけるより、間引いて本数を減らす方がコストは下がるが、街路樹を減らしたことで別の問題が起こることもある。造園業者の剪定コストは大きく、将来的に続くうえ、その他苦情等もあるため、考えていかなければならない問題である。
- 事務局 街路樹に関する苦情件数はかなり多い。行政として、苦情や交通上の支障があるからといってすぐに撤去することはできない。市民の意見を参考に進めたい。

委員長 都市生活基盤分野の2事業は、担当課が作成した資料の内容だけで委員会が判断することは悩ましい。
例えば、街路樹が道路交通に危険を及ぼしている箇所は、すぐに樹木を切れば解決でき、議論するまでもなく結論が出るため、議論の発展性がない。
市民とともに議論を深めることができる課題を出してもらわないと、この2つの事業ともに議論は難しいと思う。

【IV. 教育分野】

副委員長 教育課の日誌の必要性について、副読本の問題はどの自治体でもある。
日誌の必要性や効果について先生側が決めるのか、子ども側が決めるのか。教育現場においてある程度効果の見極めができていけば、教育現場に判断を任せるとよいテーマである。委員は教育現場の実情が分からないため判断できない。
生涯学習課の乳幼児教室は約30年前に始まった事業であるが、こども未来部とは協議しているのか。

事務局 行政事業レビューの対象事業とするにあたり、生涯学習課だけでなくこども未来部の所管課に伝えてある。

委員 日誌の必要性は委員が判断できない内容であるため、行政事業レビューの対象事業となることに疑問を感じた。
乳幼児学級は何曜日に開催しているのか。講座の内容は重複していても、様々な講座があることは良いことだと感じる。
こども未来部で実施している講座内容が示されないと、乳幼児学級との比較ができない。

委員 乳幼児学級の見直しについて、生涯学習課とこども未来部のそれぞれの業務内容が分からないので判断しにくい。
参加人数が少ないため廃止を検討するならばよいが、現在参加人数も多い。また、こども未来部の講座内容は資料から判断できない。
日誌は教科ごとに毎日1ページずつ解いていく教材であるが、別の視点では、日誌の表紙絵の公募に選定されたくて絵画を頑張っている子もいる。
教育現場で日誌の必要性が低くなっているというのであれば、あえて行政事業レビューで議論するものでもないと感じる。

委員 日誌は一度にすべてを解き終えてしまう生徒も多く、毎日の学習習慣を身に付けるという意味をなしていない。日誌の課題には習字などもあり、子どもが取り組むきっかけになる点はよいが、親の立場では子どもにやらせなければいけないという負担感もある。学校側が不要だと考えているならば廃止を含めた検討案を提示して議論していくのがよい。
乳幼児学級は参加人数がそれなりに多いので、こども未来部の講座へ移行できるならばよいが、それぞれの講座内容や見直し案が示されないと検討しにくい。

- 委員 日誌については、行政事業レビューの対象事業としてよいものかどうか判断し兼ねる。
乳幼児教室の見直しについて、講座のテーマが参加者の要望により子育て支援に関する内容に移行しており、こども未来部の講座と酷似してきたため止めたいのか、参加人数が減ってきたから原点に戻りたいのか、方向性が分からない。
- 委員長 2次選定事業として、この8事業を委員会で決定する必要があるとすると、中学生の日誌の必要性に関しては、この委員会の俎上に上げることについて判断に困る。
- 事務局 中学生の日誌の必要性については、教育課でしっかりと議論された上で出されたもので、愛知県内全域の状況を把握してはいないが、江南市内の中学校では日誌を全生徒に配付し、さらに教科ごとの課題も出されている。
この委員会の中で教育や教材に関することを判断することが難しいとなれば、仮に2次選定事業を7事業として決定するか、他の事業に替えて8事業を決定するかなど議論していただくことになる。
- 委員長 中学生の日誌の必要性について、まずは市から提案された8事業の一つとして決定するか、そもそも相応しくない事業として対象事業から外し、残りの7事業を2次選定事業として決定するのか悩ましいところである。
- 委員 各分野の候補事業のうち、星印が付いた事業は、行政事業レビューで特に検討して欲しいとされたものであるのか。
- 事務局 市の幹部会議において、各部長が所管する課の事業のうち重要度や行政事業レビューに諮って議論したいと考える事業を推薦して決定した結果である。
- 委員 今年度は実施方法を変えることはできないと思うが、初めから行政事業レビューに諮る事業を4つに限定する必要はないのではないかと。
会場の借り上げ時間の制約や評価員の負担の問題があると思うが、例えば委員会の中で、5つの事業を行政事業レビューの対象としたいとしても、その中の1つの事業を削らなければならない。その削られた事業は、行政事業レビューで検討されないことから委員会の趣旨にも反することになるのではないかと。
できれば事業数は限定せず、委員会の中で決定できるようにして欲しい。
- 委員長 事務局が説明したこれまでの選定経緯や各委員からの意見を踏まえた上で、この8事業を2次選定事業として決定する。

議題（２） 江南市行政事業レビュー対象事業の3次選定（最終決定）について

- ・ 資料3に基づき、事務局から説明した。
- ・ 質疑応答は以下のとおり。

委員長 事業概要の説明において委員から出された質問や意見について、後日、事務局より回答をいただけるということによいか。

事務局 いただいた質問や意見に対して可能な限り回答する。

委員 仮選定では4事業に限定せず、行政事業レビューの対象として相応しいと思う全ての事業を選択し、その結果を基に第3回の委員会で4事業に絞るべきではないか。

事務局 本日の事業概要の説明を受けて、行政事業レビューの対象事業として相応しいと思う上位4つの事業を選定して欲しい。
先ほどの意見は、次年度以降の課題とさせていただきたい。

委員長 江南市の行政事業レビューは今年度で3年目となり、毎年度、問題点や課題について改善を重ね現在の選定方法になった。
事業数を絞らずに対象事業の仮選定を行うと最終の選定作業が難しくなる。
委員の皆さんには、市民公開型の行政事業レビューの趣旨を踏まえ、相応しい事業を選定していただきたい。

副委員長 行政事業レビューの対象事業が多すぎると濃密な議論ができないため、事業数をいくつにすることが妥当であるかは別として絞った方が良い。対象として選定した事業を1時間という限られた時間の中でしっかりと議論すべきである。
選ばれた事業を議論するには、担当課が質疑に答えられるよう、事前によりしっかりと準備を行ってほしい。
また、対象事業の選定方法についても、票数だけで対象事業が決まるのではなく、その結果を踏まえ次回の会議で議論して決定すればよいと思う。

3. その他

今後のスケジュールについて

- ・ 事務局より今後のスケジュールについて説明があった。
- ・ 次回の委員会は7月2日（月）、市役所 防災センター2階 防災セミナー室(南) で開催する予定。